テームス河畔（南薫造氏）誠に心持のよい無難の作であつた只雲に少し首を傾けた。其他、氏の英國田舍風景もよい、**ペナン**の家は、少し色があくどく、多少の失敗は免れない。水車（湯淺一郎氏）氏の作三宅氏の色彩に似て非なるもので、誠に活々した心持がする。殊に此圖は僕か一番良いと思つた。他の作も皆僕に深き印象を與へた。

小松喜代子氏の作四點は、女性に適した圖柄で、優しかつたが少し色彩の何處かに弱い處があつた。

月島**スケッチ**（吉田喜藏氏）素人好のする作で無難であると思つたら、果して赤札が付いて居た。

其他、隨分佳作も多かつた、又中にはいかゞわしい駄作もあつた。それから、東季久氏の鉛筆畫が、五點一とまとめにしてあつたが、展覽會で見る丈の價はなかつた樣である。

油繪には、參考品として、外國大家の作三點あり、又、黑田、中澤、跡見等諸氏の名作も澤山あつた。

嶽陽美術會展覽會を見る

深澤　信

嶽陽美術會展覽會は、靜岡市好畫者數名の主催によつて靜岡物產陳列館樓上に於いて、開かれた。

九月十五日

たま〳〵細雨は落ちぬ。午後二時陳列館に向つた。會場は七室に分れて居る。

第一室は大部水彩畫にして、中に二三葉の色鉛筆畫及び**パステル**畫があつた、水彩畫には三宅氏の『小路』、『月夜』及び、『田舍家の裏』、岡氏の色鉛筆畫、『乙女の顏』、安藤氏の『おぼろ夜』等見る者をして、皆其の精巧なるを感ぜしめた。或る者は、土佐派の繪と比較して、頻りに感心して居る。第二室以下七室迄は大部油繪に其の席をしめられた。中に小さな**パステル**畫もあつた。

第三室と覺える。和田氏の『大島の風俗』、實に天下の大作であるまいかと思はれた。牛小屋の構造より、立てる婦人の姿は一目見て、大島の風俗を思ひ出さしむ。又黑田氏の菊、某氏の**エジプト**の月、模寫なれど、原畫は**ターナー**氏の筆になれる難波船を見ては、一度も上京せぬ余をして、大平洋白馬兩會に、入らしめた感をおこさせた。

八幡紀行

大阪　夏月生

予は、天長の佳節朝飯もソコ〳〵に、宅を出て、谷村氏を誘ひて、天滿橋なる京坂電軌停留所に馳け行き、忽ち車中の人となる。

やがて、汽笛と共に車は徐々と進行をはじめ間もなく蒲生を過ぎ、市内を遠く背に見る。此ほとり田野の彩は華やかなる、オレンヂ一色となりて、その盡くる所、信貴、生駒の諸山、煙の如く浮び出て、秋氣天地に滿てり。

程もなく、八幡に下車して、足を淀川へ運ぶ。此附近風光一變して、廣漠たる淀川、洋々と流れ、八幡、山崎附近の連山、